SDGs新聞	株式会社コーセー
化粧品がペンやヘアピンに大変身！？	

SDGsラジオを読んでみよう！

みなさんは最近、「アップサイクル」という言葉を耳にしませんか？
廃棄される予定だったものを、新しいものへと生まれ変わらせることをアップサイクルと言い、SDGsの達成に向けて、とても有効なアクションになると注目を集めています。化粧品会社のコーセーでも、このアップサイクルに取り組んでいます。
さまざまな企業とコラボし、研究の過程で最終的に商品にならなかったメイクアップ化粧品を絵具やインク、ボールペン、さらにはアクセサリーなどへと生まれ変わらせています。
モノを捨てずに、新たな価値を与える。このようなアップサイクルが社会でもっと広がれば、地球の未来はきっと明るいですよね。
みなさんのおうちや教室にも、アップサイクルにより生まれ変わったものがたくさんあると思います。ぜひ、探してみてください。

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！

画像参照：ヘアアクセサリーと使用イメージ
（コーセー公式HPより）

化粧品会社のコーセーでは、化粧品の製品開発や品質管理の過程で発生した試作品を、できるだけ無駄にしないように、「アップサイクル」の検討を協業先と共に進めています。「アップサイクル」とは、廃棄予定であったものに手を加え、より良いモノに生まれ変わらせることで、「クリエイティブ・リユース（創造的再利用）」とも呼ばれています。「リサイクル」と似ていますが、リサイクルとの違いは、より良いものになったか、品質や価値が「アップ」したかどうかの点にあります。このアップサイクルはSDGsを達成するためのとても重要なアクションとして、今、さまざまな分野で注目が集まっています。

画像参照：コーセー公式HPより

コーセーでは色々な企業と連携し、製品開発や品質管理や製造過程で発生した不要となった化粧品の中身などを活用し、アップサイクルしたヘアアクセサリーを制作しました。このヘアアクセサリーは、コーセーが「キッザニア東京」に出展しているパビリオン「ビューティスタジオ」の「ヘア＆メイクアップアーティスト」体験で用い、みなさんに「資源を循環させて使う重要性」を学んでもらう貴重な機会になっています。また、役目を終えた化粧品を協業先に提供し、水性ボールペンに生まれ変わらせる取り組みも進めています。

キーワード

化粧品バルク

本来の意味は「個別の容器に充填する前の化粧品の中身」のことですが、ここでは製品開発や品質管理の過程で発生する「廃棄予定の化粧品」を指します。

キッザニア東京

子どもたちが、本格的な設備や道具を使って、楽しみながら仕事や社会のしくみを学ぶことができるテーマパークです。

協働

同じ目的のために、力を合わせて働くことです。

対象ゴール

みなさんにできること！

みなさんの身近に、アップサイクルされたモノがないか探してみましょう。

おさらい

- 「アップサイクル」とは、廃棄予定だったものに手を加え、より良いモノへと生まれ変わらせること。
- さまざまな企業が協働することで、アップサイクルの可能性や幅が広がる。
- コーセーでは役目を終えた化粧品を、他の会社と協業しアクセサリーや文具などにアップサイクルしている。

メモ

SDGsラジオ